

この道ひとすじ

金子みすゞ 愛のメッセージ



私は京都の大学を卒業後、作曲家として東京で活動していたが、音楽の方向性を見失い、もう一度自分を見つめ直すために、2003年1月、山口県へ帰郷した。

実家で久しぶりにゆっくり過ごす時間。父の本棚にあった金子みすゞ童謡集に手が伸びた。その詩集は、私がまだ12歳の時に父が購入していたが、当時は「いろんな本があるな」と何百冊と背表紙が並ぶ中で、「金子みすゞ」という名前、綺麗だな」静かに佇むその名前だけが、なぜだか心の奥にずっと残っていた。しかし、それを開くことはなかったまま十数年が過ぎていた。

帰郷後の私の心は、音楽で大成しないまま故郷に戻った敗北感でいっぱいだった。しかし、金子みすゞの詩集のページを捲っていくと、彼女の眼差しの深さにどんどん惹き込まれ、そんな私の心に止めを刺したのは、「私と小鳥と鈴と」だった。心臓がズキンと大きく反応した。

“みんなちがって、みんないい” 詩の最後の言葉だ。

一筋の光が差し込んだ。

みすゞが優しく語りかけてくれた。あなたの中に、何かの役に立つ「ちがい」があるのよ。それはあなたに与えられた「自分らしさ」。あなただから出来ることがある。あなたが見つめてきた音楽を信じて、続けていきなさい。

そう聴こえてきた気がした。

私の心は救われた。「自分のための音楽ではなく、誰かのために音楽を奏でていくんだ」。私は、ただ音楽が得意で好きだから、歌いたいから、それこそが純粋な心だと思っていた。けれどもそれは、大きな勘違いだった。音楽の特性は、周りの人々の役に立つために与えられた役割だったのだ。

詩集の63編を読み終えた時、私の心に迷いはなかった。「私が探し求めていた心はこれだ！この詩に曲をつけて歌いたい」。スランプが嘘のように、一気に8編の詩に曲が浮かんだ。

それから数日後、友人から一緒に出演してみないかと、コンサートのオファーが来た。実はこの2003年は偶然

ちひろ
シンガーソングライター・
ラジオパーソナリティ

山口県生まれ。金子みすゞの詩に作曲し歌い語る“メッセージシンガー”。KRY山口放送ラジオ「ちひろDEブレイク」パーソナリティ。その他、NHK「中国！ちゅーもく！ラジオYAMAGUTIC」（中国5県放送）、NHK「ラジオ深夜便」にも出演。また、校歌やCMソングの製作を手がけるなど、幅広く活躍。



にも金子みすゞ生誕100年を迎えた年で、オファーの日はまたも偶然に私の誕生日だった。この「誕生」の節目が重なったコンサートで、初めて金子みすゞの歌を披露し、それが地元メディアに取り上げられ、私のシンガーソングライターとしての活動が始まった。それは私にとってまさに「再生」の日だった。

それから8年経った2011年。あの東日本大震災の直後、ACジャパンのCMで彼女の詩「こだまでしょうか」が朗読で何度も流れ、心の傷を負った多くの人々を救った。

私は、日頃彼女の詩を歌うことを生業とさせていただいているのだから、何かその恩返しをしなければという気持ちが込み上げた。すると数ヶ月後、福島県からCDの注文が入り、その方と文通が始まり、震災翌年から福島県・宮城県で復興応援コンサートをする機会に導かれた。今思うと、それは「恩返し」ではなく「恩送り」なのだと実感する。

被災地の移り変わる事情もあり、現地での復興応援コンサートは5年35ヶ所で区切りをつけることになったが、その翌年から福島県郡山市に「鈴と小鳥の会」という市民団体が立ち上がり、逆に毎年コンサートのオファーをいただくようになった。これこそが復興の一つだと、私は喜んで歌わせてもらっている。

金子みすゞの詩は、何を大切に見つめるべきなのか、それを様々な存在から学び、その世の中で“誰かの役に立つ自分の倅せ”に出合うための、心の道標だと思う。

私はその彼女の愛のメッセージをこれからもずっと、歌い語り続けたい。